

事務事業名		赤ちゃんふれあい体験学習開催事業			☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	04 安心が確保されたまちづくりの推進			事業期間		予算科目				
	施策名	15 子育て支援の推進					会計	款	項	目	事業
	基本事業名	01 子どもの心身の健やかな成長支援					01	04	01	01	25
根拠法令											
所属	部課名	生活福祉部国保年金課(保健介護センター)			☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 平成9 年度 ~) ☐ 期間限定複数年度 [計画期間] 年度 ~ 年度 全体計画欄の総投入量を記入						
	係名	予防係	電話	0192-27-1581							
			内線	437							
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述) 思春期における保健体験学習として、高校生が赤ちゃんに触れ合う機会を設け、この体験を通し、母性、父性の育成を図る。対象となる高校生は市内2ヶ所の県立高校に輪番制で協力依頼する。実施は、夏休み、冬休みの2回。体験内容は、乳児(3ヶ月児)の抱っこ、おむつ交換、離乳食の試食等。 主な事業は、高校への協力依頼、高校生への事前学習日程の調整と実施、高校生の保護者へのお知らせ、体験学習実施時に離乳食教室の対象となる乳児への協力依頼、高校生への保健指導、高校生へのアンケート実施。 事業費は、体験学習指導用婦人体温計、指導用パンフレットの購入に使われている。						全体計画(期間限定複数年度のみ) 総投入量(千円) 事業費 財源内訳 国庫支出金 都道府県支出金 40 地方債 その他 一般財源 21 事業費計(A) 61 人件費 正規職員従事人数 延べ業務時間 人件費計(B) 0 トータルコスト(A)+(B) 61					

1 現状把握の部(DO)

(1) 事務事業の目的と指標		活動指標(事務事業の活動量を表す指標)	
手段(主な活動)		名称 単位	
前年度実績(前年度に行った主な活動)		ア 実施回数 回	
実施は夏休み1回のみ開催。大船渡高校の希望生徒6名参加。		イ 参加人数 人	
今年度計画(今年度に計画している主な活動)		ウ	
実施は夏休み、春休みの2回開催。対象は大船渡東高校。			
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等		対象指標(対象の大きさを表す指標)	
市内2ヶ所に通学する高校生。		名称 単位	
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		カ 高校生人数 人	
小さい子どもや赤ちゃんに触れ合う機会が少ない高校生が赤ちゃんに触れ合う体験を通して、将来子育てをする心構えや乳幼児の世話について学ぶ。		キ	
結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)		ク	
子育てに関するノウハウを学び、体験することで将来の育児に役立てられる。		成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)	
		名称 単位	
		サ 参加者の満足度 %	
		シ 参加率 %	
		ス	

(2) 総事業費・指標等の推移		年度	17年度(実績)	18年度(実績)	19年度(実績)	20年度(実績)	21年度(実績)	22年度(実績)
投入量	事業費	単位						
		千円						
投入量	事業費	国庫支出金						
		都道府県支出金	0	40	40	41	41	
		地方債						
		その他						
		一般財源	61	21	21	20	20	34
		事業費計(A)	61	61	61	61	61	34
	人件費	正規職員従事人数	1	4	1	4	1	6
		延べ業務時間	20	114	20	20	20	267
		人件費計(B)	80	456	80	80	80	1,068
		トータルコスト(A)+(B)	141	517	141	141	141	1,102
活動指標	ア	回	2	2	2	2	1	2
		人	26	40	52	16	6	10
		ウ						
対象指標	カ	人	322	229	723	554	654	557
		キ						
		ク						
成果指標	サ	%	-	100	100	100	100	100
		シ	8.1	17.5	7.2	2.3	0.9	1.8
		ス						

事務事業ID	0288	事務事業名	赤ちゃんふれあい体験学習開催事業
(3) 事務事業の環境変化・住民意見等 この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？ 少子化や核家族化の中で、赤ちゃんや小さい子どもに触れ合う機会が少なくなり、近年、育児不安を抱える親に対する支援が社会的問題となっている。思春期において赤ちゃんとの触れ合いの機会を設け、母性・父性を育てることをねらいとして実施。			
事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは後期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？ 特に変化はない。			
この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？ 体験学習内容として、「抱っこ」や「ミルクを飲ませる」という実技的な要望が多かった。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的 妥当性 評価	政策体系との整合性 この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている [理由] 思春期から、生命の育み等の体験学習を経験することにより、健全な母性・父性を育てることは、心身の健やかな成長支援につながる。
	公共関与の妥当性 なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である [理由] 事業実施には学校、生徒(本人)、親、協力してくれる乳児・保護者等多くの関係者が関わっており、連絡調整が重要になっている。調整役として、市が行うことが妥当と考える。
	対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 適切である [理由] 時間や人的協力体制を考えると、現状での実施が適切と思われる。
有効性 評価	成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	☐ 向上余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない [理由] 現在の時間・内容で妥当と思われる。
	廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	☐ 影響無 [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 [その内容] 廃止・休止することにより、育児に関する体験学習の機会が失われる。
	類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☐ 他に手段がある (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☐ 統廃合・連携ができない [理由] 類似事業がない。 ☒ 他に手段がない [理由]
効率性 評価	事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 必要最小限の事業費で実施している。
	人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない [理由] 必要最小限の所要時間で業務に当たっている。
公平性 評価	受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☐ 見直し余地がある [理由] 3 改革・改善方向の部 (3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である [理由] 参加者は高校生であり、自己負担がかかると参加者の減少につながるかと考える。まずは参加してもらうことが大事。他市町の高校に通学する生徒が参加できないのは不公平にならないか。

事務事業ID	0288	事務事業名	赤ちゃんふれあい体験学習開催事業
--------	------	-------	------------------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 参加者の反応はよいが、参加者自体が少ない。感想文やアンケートの中から、高校生の意見や要望に応えていき学習内容を充実させたい。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																					
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) アンケートで高校生から、実技的な要望が多かったので、実際に難しい場合は人形で代行するなど高校生の要望に応えられるように配慮したい。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 実技的なことは、最大限機会を設けるようにしたい。また、実技的なことのみならず、母親になることや命のつながり・大切さ、家族との関わりを改めて考える機会となれるようなプログラムを組む。																							

(職 名) 原則として施策の主管課長

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者	国保年金課長
-------	--------

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている 評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>有効性</td> <td>☐ 適切</td> <td>☒ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>	目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり	効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(3) 評価結果の根拠と理由 少子高齢化社会の中にあって、有効な事業と考える。有効性改善の余地はあるものの適切な事務執行がなされている。									
目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
有効性	☐ 適切	☒ 見直し余地あり																						
効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																						
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☐ 現状維持 事業のやり方改善 (☒ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 事業内容の改善を図りながら、継続して事業を実施する。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1" style="margin-top: 10px;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																						
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持		●	×																				
	低下		×	×																				

5 最終評価結果

(1)行政経営推進会議等での指摘事項
